

会 議 録

会議の名称	まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会（第2回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成27年10月6日(火)午後5時55分～午後8時15分		
開催場所	本庁舎3階第1会議室		
出席者	委員長	渡邊 嘉二郎	委員
	副委員長	本間 紀行	委員
	委員	田村 裕一	委員 飯田 千洋 委員
		川合 祐之	委員 北島 彩子 委員
		鳴海 多恵子	委員 河野 律子 委員
欠席者	委員	小宮 貴大	委員
事務局	企画政策課長	水落 俊也	
	企画政策課長補佐	中田 陽介	
	企画政策課係長	廣田 豊之	
	企画政策課主任	津田 理恵	
	株式会社創建	大谷 優	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/>	一部不可	不可
傍聴者数	0人		
【会議次第】 1 小金井市人口ビジョン（素案）について (1) 人口ビジョンの構成 (2) 人口の分析 ① 人口の現状分析 ② 人口の将来推計 ③ 人口の変化が地域の将来に与える影響（意見交換等） (3) まちの分析 ① 市民意識の現状（市民アンケート結果（速報）） ② まちの現状（就業、産業、土地利用） 2 今後の検討の流れについて 3 その他（意見交換等）			

【会議結果】

1 小金井市人口ビジョン（素案）について

(2) 人口の分析

① 人口の現状分析

○事務局から説明《資料No.7 P 2～》

- ・図表 1 …戦後、人口が急激に増加している（多摩地域に共通する特徴）。現在はある程度増加は止まり、推移している。
- ・図表 2 …平成 17 年→平成 22 年人口増加率は多摩 26 市中 18 位。平成 22 年→平成 27 年人口増加率は多摩 26 市中 3 位。公務員住宅の建設等があったため。
- ・図表 3 …平成 22 年から平成 27 年にかけて、0～4 歳の人口が約 500 人程度増えている。
- ・図表 4、5 …老年人口（65 歳以上）が非常に伸びている。
- ・図表 6 …世帯人員は徐々に減っており、おおむね 2 人となっている。
- ・図表 7 …単独世帯が非常に多い。
- ・図表 8 …地区別の人口推移では、特に本町で過去 5、6 年間で人口が非常に増加している、再開発や、公務員宿舎の建設の影響がある。
- ・図表 9 …市域を 3 区分（武蔵小金井地区、東小金井地区、野川地区）し、それぞれの人口、面積、及び人口密度を示している。
- ・図表 10、11 …武蔵小金井地区、東小金井地区はおおむね増えるか横ばいで推移している。
- ・図表 12 …野川地区では、生産年齢人口（15～64 歳）が減少傾向にある。
- ・図表 13 …男性の未婚率はどの年代においても東京都の平均より高い。
- ・図表 14 …小金井市の合計特殊出生率は 1.29 で、全国と比べると 0.2 ポイント低く、東京都と比較すると若干高い。また、改善傾向にある。
（補足）表に載っていないが、小金井市は多摩 26 市中 13 位。1 位稲城市は 1.504、2 位羽村市は 1.5、最下位の武蔵野市は 1.135 であり、小金井市は中間の位置にいる。
- ・図表 15 …平成 17 年から平成 22 年の転入者数の増は貫井北町の宅地開発や駅前の再開発による。
（補足）表には載せていないが、転入率（総人口に占める転入者の割合）が平成 22 年度は多摩 26 市中 1 位、平成 26 年度は 5 位で、転出率は平成 22 年度、平成 26 年度ともに第 2 位で、転入も転出も高い。
- ・図表 16 …20～24 歳の転入が非常に多く、25 歳以上になると、転出が多くなる。
- ・図表 17、18、19 …転入前の居住地は杉並区、武蔵野市、三鷹市、

小平市が多く、特に杉並区が多い。転出先は小平市が一番多いが、武蔵野市、三鷹市、杉並区等、中央線沿線に転出していく。小平市（中央線沿線ではない）に転出する理由として中央線沿線の土地の価格が非常に高いことが想定される。図表19については図表17、18の差（転入者・転出者の差）を示している。

○主な意見

- ・高齢者が活躍しないといけないと思う。世帯人員が少ないので、独居老人のケアをどうするか考える必要がある。20～24歳の転入が多いが、その後で転出する傾向もある。他の自治体とは違う、学生が住みやすい環境整備のようなことも必要かなと思う。転入、転出の状況をみると、杉並区からは、隣接していないが多くの人が小金井市に転入している。このようなまちと仲良くして、連携することができないか。
- ・データの時点がばらついているが、国勢調査のデータは5年前のものなので古いと思う。転入、転出の状況は、国勢調査でないとわからないのか。
→転出者の転出先について、正式に公表できるデータは国勢調査のみである。（事務局）
- ・転入、転出の状況をみると、学生の時に入ってきて、持ち家を取得して出て行ってしまいう傾向がうかがえる。武蔵野市は、かなり短い期間（学生の間）で移動してしまいうが、小金井市は、それよりは長い期間住んでいるようだ。転入、転出のパターンを捉えて、学生の間だけいる人や、持ち家を買う人の2種類をすくうことはできないか。
また、55～60歳ぐらいで転出する人が多くなっているのは、リタイアした人が、西の方の自治体に出て行ってしまいうと思われる。同居をしていないから、小金井に住み続けられなくなり、息子や娘が別に家を持っているとそちらに行ってしまうのではないか。
- ・30～50歳の転出は、マイホームを購入するために移動するのかなと思う。
- ・不動産業という仕事柄、このデータは実感がある。学生が多く、卒業後出て行ってしまいうという、小金井の宿命がそのまま出ていると思う。小金井市は都心までのアクセスもよいというのもあり、そのまま引っ越さずに就職する学生も多い。転入より転出が多くなっている20～30歳代は、大切にしたい。出生率が1.29と上昇しているが、最近、駅近のマンションや宅地開発による住宅が増えている。それが出生率に影響を与えていると思う。賃貸住宅も、かつてはワンルームが多かったが、1LDK、2DKなど、結婚した世帯や子育て世帯向けが増えている。以前、小金井市に住んでいて、住みやすかったからと、子どもがいる30歳代ぐらいの人が戻ってくることも多い。
- ・出生率が増えている、人口ピラミッドでも0～4歳が増えている一方で、1世帯

当たり的人数が減っていることは、一人暮らしの高齢者が増えているということではないか。

- ・核家族が増えている現状はあるが、自分は大家族に戻すべきと考える。高齢者問題や子育ての問題も、家族で支え合うことで解決できたものもあった。吉祥寺の魅力は、まちに賑わいがあり、バイトもたくさんあることである。3つの大学がある小金井市としては、京都のように、学生を大切にしているかどうか。学生を大切にすることによって、住み続ける人も増えるのではないか。
- ・他の自治体の人口推移をみると、西の方は既にマイナスになっているのは、脅威なんじゃないか。まだこのあたりには来ていないが、今後は、都心近くにも来るのではないか。そのための対策が必要ではないか。
- ・小金井市だけ人口が増えればよいという考え方は間違いだと思う。全体でプラスにしようということがないと、人の取り合いになってしまう。稲城市や羽村市は、西の方だが人口が増えているようだが。
- ・福生市はあまり開発の余地がないので、周辺に出て行ってしまうという話を聞いたことがある。
- ・稲城市では丘陵部で大規模なニュータウン開発が進んでいる。

② 人口の将来推計

○事務局から説明《資料No.7 p 14～》

- ・今回初めて示したものである。国による将来推計（国勢調査に基づく推計）と住民基本台帳に基づく人口推計の2パターンがある。国による将来推計は、さらに2パターンあり、1つは国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）によるもの、もう1つは日本創生会議によるものである。
- ・図表20…日本創生会議の推計は移動率（転入・転出の差）が現状のまま推移している。社人研は移動率が今後5年間で半分になると推計している。
- ・P16以降は住民基本台帳を踏まえて推計を行っている。
- ・図表21…平成35年12万12人をピークに、平成72（2060）年には10万人を切ると推計している。
- ・図表22…老年人口（65歳以上）は平成62年まで増え続ける。生産年齢人口（15～64歳）は平成32年をピークに減少する。年少人口（0～14歳）は平成37年をピークに減っていく。
- ・図表23…老年人口は平成57年度辺りで30%を超える。生産年齢人口は大きく落ち込んでいる。
- ・P18以降は各地区（武蔵小金井地区、東小金井地区、野川地区）ごとの推計。
- ・図表24、25…武蔵小金井地区は人口の増加が一番多い。平成37年度5万5,152人をピークに下がっていく。年齢3区分の人口推

移は、全体の人口の推移とおおむね一致している。

- ・ 図表 26、27…東小金井地区は、同様に平成 37 年度にピークを迎えるが、老年人口については、ずっと増え続ける。生産年齢人口と年少人口の推移は全体の人口の推移と同様である。
- ・ 図表 28、29…野川地区は、最も大きい減少となっている。平成 32 年の 2 万 9,001 人をピークに下がっていく。老年人口は平成 57 年をピークに、生産年齢人口及び年少人口は平成 27 年をピークに下がっていく。年齢 3 区分人口割合では平成 47 年に老年人口が 30% を超え、非常に高齢化率が高まる。

○ 主な意見

- ・ 社人研と小金井市の推計は非常によく似ている。この推計より人口を増やそうと考えても無理なのだろうか。これを前提にどうするかを議論していかなければならない。
- ・ 江戸時代までの日本の人口は変わらなかったが、明治に入ってから、食料があり、安全であるため、増えてきた。
- ・ まちとしては基本的には人口に見合った機能（ある地域に機能を集約したり、ある地域では減らし、自然を残す等）を持たせるということである。
- ・ 市の推計ではスタート地点（2015 年の人口）で国の推計より 5 千人ぐらい少ない。国の推計は国勢調査をベースにしているということで、今年の国勢調査の結果が出た後に再度国が将来推計を行ったら、値も下がるのか。国の方が大雑把な推計をしているが、市の方が細かくみているということによいか。
→平成 23 年度から平成 27 年度の前後に公務員住宅の建設や再開発等があり人口が増加したため、国の推計では移動率が伸びているが、市では、それらは特殊な事例として除外して推計したため、異なっている。（事務局）

③ 人口の変化が地域の将来に与える影響（意見交換等）

○ 主な意見

- ・ 人口が減るのは宿命のようなもので、野川地区では 5 年後がピークになっている。地域の特性を生かして、改善できる方法はないか。古い住宅が多い地区で、高齢化率も高いことに対する対策が必要。
- ・ 空き家があるなら、スペースを生かして他の一軒家を広くするとか、あるいは自然を残し、外から来てもらう空間に変えられないか。
- ・ 一人暮らし高齢者のところに、例えば空いている 2 階を使うなどして、学生を住まわせるのはどうか。今ある住環境の維持もでき、高齢者の見守りにもなる。人口もわずかであるが増えるかもしれない。仕事でも少しやり始めている。

- ・学生にやさしい街として考えることもできる。
- ・自分も人数が多いところの年代なので、2045年頃には高齢者に入ると思うと怖くなる。知り合いが、鎌倉で、古い家をシェアハウスにしている。鎌倉は古い趣のある家が多く、そこをシェアハウスにして若い人に住まわせている物件が結構ある。それが小金井に根付くかはわからないが、壊して作りかえるだけでなく、活用する方法もある。
- ・ルームシェアについて、転入、転出のデータをみると、学生の時に小金井市に来る人が多いが、30歳代でも小金井に転入してくる人が多い。転勤族の人で、東京に家を買うか地元で買うか迷うという話を聞く。実際には家を買って、単身赴任をしている人も多く、母子または父子だけで暮らしている世帯もあるので、そのような人が高齢者と一緒に住むと、子どもを見てもらえたりといったメリットもある。
- ・20～30歳代で人の動きが多い。学生が根付くようになるとよいと思う。自分も転勤族だが、小金井市に家を買った。世代ごとに、どういった人が多いのかを分析すると、何をすればいいのかも見えてくるのではないか。5年ごとのデータで結果をみて施策を考えるのでは、毎年の変化には対応できないのではないか。
- ・人口が減少すると、空き家の問題が出てくる。人口を増やすというよりは、維持を目標設定としてはあるのかなと思っている。人口を維持することを目標にするなら、社会増については、大学があるため一定層は入ってくるので、自然増について、子育てしやすくすることが必要になる。転出入が激しいが、ずっと住んでいる人と、出入りする人との2つの層に分けて支援を考えていくことがよいのでは。ハード面の支援も必要だが愛着をどう作っていくかも議論したい。
- ・人口の移動をどこで止めていくか。転勤や大学で人が出入りしている。定住させることを考えると、市のサポートとして、高齢者の生活と子育ての2つの支援がポイントになる。そこに自然環境がよいということはどう組み込むことができるか。市の予算のことも考えなくてはならない。シェアハウスのような新しい考え方も出てきているが、高齢者でも、サポートしあえる年代は70歳ぐらいまでである。
- ・野川地区の人口減少が気になっている。野川地区は、駅から少し遠く、戸建てが多い。シェアハウスに若い人が入って活気づけるのにはよいかなと思う。散策できるところも多いが、歩きながらちょっと入るような店舗が少ないので、個性のある店が増えるとよい。小金井市は学園都市であるが、学生の母親がランチに行くような店が少ない。国立市等にはそのような店がある。今の65歳以上の方は知識や経験、気力、活力があるので、活躍できる場を増やすとまちも活気づくと思う。
- ・三鷹市では、新築は100㎡以上敷地がないと建てられないといった規制を設けている。人がいない空間は自然として活用することも考え

られる。自分は岩手から東京に出てきたが、地方からでてきた人は定年になると、東京に住むか、田舎に戻るか悩むことがある。

シェアハウスは、マナーやルールについての不安もある。上手くいくには、我が家に来てほしいという風土、ある種の文化が必要。高齢者のケアについての理解をしてもらう必要がある。

- ・貫井で、二世帯住宅を4LDKにして、学芸大の学生、男性2人、女性2人に住んでもらった例がある。法律があるので、部屋にカギをつけて貸すが、共用部分のルールや、近所に挨拶をするなどの決まりを作っている。しかし、友人を連れてきてしまうケースもあり、見守る大人がいないと上手くいかない面もあるが、上手くいくようにできれば可能性はある。
- ・いろいろ問題はあるかもしれないが、一つの策としてはあると思う。
- ・大人が若者を信用する文化が根付く必要がある。
- ・そのまちに暮らす人が理解するようになれば、吉祥寺などとは違うまちになる。
- ・昔の京都のようになるとよい。文教地区なので、可能性はある。
- ・個性があるまちになってほしい。小金井らしさが最近なくなってきている。昔は、小金井市にしかないことが多かった。
- ・例えば喫茶店で学生証を見せると半額になるとか。
- ・早稲田にはそういった店もある。小平市では、駅にそのまちを紹介する大きな看板があるが、武蔵小金井駅にはそういったものがない。学生を大切にすまちとか、どのようなまちかアピールすることも重要。どのようなサポートがあるのかわかりやすく示すこと。シルバー世代が元気なこともアピールできるのでは。
- ・小金井市はそういった宣伝が下手なのではないか。

(3) まちの分析

① 市民意識の現状（市民アンケート結果（速報）

○ 事務局から説明《資料No.8 p 1～》

- ・資料7でいうと、「第2章 まちの分析」の「第1節 市民意識の現状」となっている部分であるが、今回は資料8で取り出して作っている。
- ・小金井市在住16～39歳の方（若者～子育て世代）2,000人にアンケートを行い、480人（後に数名増）から回答があった。
- ・問1、2…性別では女性、年代では30代の方からの回答が多くなっている。
- ・問3…市外から転入してきた方が8割以上である。居住年数が3年未満の方は3割程度で、出入りの激しいまちであるとわかる。
- ・問4…上の表で、3つの居住地域、下の表ではさらに細かい区域での

データがわかる。

- ・問 5 … 出身地は都外が半数以上で、市内出身は 16.7% となっており、出入りが激しいことを裏付けている。
- ・問 6 … 住居は賃貸マンション・アパートが一番多く、続いて、一戸建ての持ち家となっている。
- ・問 7 … 世帯構成では親と同居や子どもと同居といった「二世帯が同居」が多く、夫婦のみ、あるいは単身世帯というのも多い。
- ・問 8 … 会社員・公務員などが多い。
- ・問 9 … 通勤・通学先が一番多いのは市内で、新宿区、千代田区等と続いている。
- ・P 8～9 は、転入してきたという方限定の設問で、資料 8 作成時点で全回答者 480 人のうち 403 人（「N = 403」）から回答を得ており、わりと大部分の回答が得られている
- ・問 10 … 転入してきた理由は、結婚のため、住宅の都合、次いでお仕事の都合となっている。
- ・問 11 … 小金井市に転入した理由は、通勤・通学に都合がよかったから、住宅購入費・賃料が手ごろだったから、希望していた広さの住宅があったから、みどり・水辺などの自然環境がよいからといった回答が多い。
- ・P 10～13 は、高校・大学等の卒業後の進路や就職観について、高校・大学に在学中の方に限定して聞いている。N = 27 ということで、実際に回答を得られた方は非常に少なく、統計的に見ると参考程度の数字になってしまう。
- ・問 12 … 高校生は、大学等に進学したいが 96.3%。
- ・問 13 … 大学に行くときは、自宅から大学などには通いたいが一番多い。次いで、住まいにはこだわらないが多くなっている。
- ・問 14 … 問 13 の回答の理由ということでは、自宅のほうが生活に困らないからが多く、やはり賃料等の部分があるかなというところである。
- ・問 15 … 12 ページのほうに進み、就職先の地域に関してということでは、特にこだわらないというような回答が多いが、小金井市の自宅から通える地域で働きたいという方がその次に多く、市内で働きたいが 3.9% である。市外（小金井市の自宅から通えない地域）は 1 割ぐらゐの回答になっている。
- ・問 16 … 問 15 の回答の理由では、就職先の場所を選ぶ理由ということになりますけれども、住みなれた地域で暮らしたい、あと、働きたい会社があるからということで、東京近郊であるため、いろいろな働きたい会社に小金井市に住んだまま勤められる感覚があるのかなという部分と、やはり住みなれた地域への愛着というところが大きな理

由になっているのかなと思う。

- ・ P 1 4 ~ 2 0 は、出産・子育てに関する意向について聞いている。
- ・ 問 1 8 … 4 割ぐらいの方が子どもがいる。
- ・ 問 1 9 … 第一子が生まれた年齢を聞いている。
- ・ 問 2 0 … 現在の子どもの人数は 1 人、あるいは 2 人が多い。
- ・ 問 2 1 … 3 6 . 5 % ぐらいが出産をきっかけに仕事をやめたことがあるというお答えをしている。
- ・ 問 2 2 … 問 2 1 の回答の理由は、勤め先や仕事の状況から働き続けるのが難しかった、あるいは家事や育児に時間をとりたかったというところが多い。また、その他が結構多いが、自由記述で、保育園関係（保育園に入れなかった等）が回答として出ておりました。
- ・ 問 2 3 … 仕事を続けた理由は、家事、育児との両立の努力をしても仕事をしたかったという回答と収入面で厳しかったという回答が多い。
- ・ 問 2 4 … 最終的に持つつもりの子どもの人数は 2 人が一番多くなっていますけど、問 2 5 と見比べると、今いる人数よりは多く希望していることがわかる。
- ・ 問 2 5 … 最終的に持つつもりの子どもの人数について、理想的な数字を持ってそうだという方が 6 割ぐらい、それより少ないという方が少し少なくなっている。
- ・ 問 2 6 … 最終的に持つつもりの子どもの人数が理想より少ないであろうと答えた方に理由を聞いたところ、子育てや教育にお金がかかり過ぎるが非常に多く、次いで年齢や体力的に難しいという回答が多い。
- ・ 問 2 7 … 子どもを産み育てやすくなるための施策については、保育園・児童館などの子育て環境の充実、あるいは子育てにかかる費用の負担軽減という回答が多く、次が職場における理解や支援である。
- ・ P 2 1 ~ 2 2 は、小金井市の住みやすさや定住意向について聞いている。
- ・ 問 2 8 … 小金井市の住みやすさについては、どちらかという住みやすいが最も多く、住みやすいが次に多く、7 割以上の方が住みやすいと答えている。
- ・ 問 2 9 … 将来、住み続けたいかについては、今後についてはわからないという回答があるため、結果的に住み続けたいというのは、少し押される形にはなっているが、6 割近くの方が住み続けたいと回答している。
- ・ 問 3 0 … 住み続けたいまちとはどんなまちかという設問であり、問 2 9 で住み続けたいと回答した理由ととれると考えると設問を設定した。街が安全・安心である、買い物などの日常生活が便利である、自然環境がよい、安心して子どもを産み育てられる、子どもがのびのび育つ環境がある、周辺の利便性が高い、これらの回答が、小金井市が現在

評価されている部分として見てとれるかなと思う。

②まちの現状（就業、産業、土地利用）

○事務局から説明《資料No.7 p 23～》

- ・ 図表 3 0、3 1…市民の就業・通学の状況として、市外に勤務する人が 7 割を占めている。
- ・ 図表 3 2…就業率を小金井市と東京都と比較しているが、女性の 3 0 代から 4 0 代のあたり（子育て世代）で、おおむね東京都と似ているが、小金井市のほうが若干低い。
- ・ 図表 3 3、3 4…夜間人口のほうが多い。昼間は外に働きに行っている方が非常に多いまちである。
- ・ 図表 3 5、3 6…市内の就業者は市外から働きに来ている方が多い。
- ・ 図表 3 7、3 8…近隣市に比べ、事業所数、従業者数、年間商品販売額が最も低い。
- ・ 図表 3 9…工業（事業所数・製造品出荷額）についても、近隣市の中では、府中市が突出しており、小金井市は最も低い。
- ・ 図表 4 0…土地利用については、宅地が大部分を占めていて、農地が少し減りつつ、宅地が増えている。
- ・ 図表 4 1…近隣市の中で、公園、運動場等の比率が若干多い。
- ・ 図表 4 2…用途地域の割合については、第一種低層住居専用地域（基本的には、戸建ての住宅しか建たない）が多い。
- ・ 図表 4 3…住宅の所有関係について、戸建ての持ち家、あるいは民間の借家も多いというところは、近隣市と大体同じである。
- ・ 図表 4 4…人口密度について、小金井市は、市部の中では高いほうである。
- ・ 図表 4 5…坪当たりの公示価格を掲載しており、都内 2 6 市中 6 位である。

○主な意見

- ・ 学生の就職については、場所はこだわらず、とりあえず就職したいというのが表れている。
- ・ 問 2 9 と問 3 0 のクロス集計（住み続けたいと回答した人が住み続けたいまちとはどんなまちと考えているか、また住み続けたくないと回答した人が同と考えているか）をお願いしたい。
→次回示したい。（事務局）
- ・ 年代別（3 0 代は子どもがいる人が多く、2 0 代や 1 0 代は学生や単身世帯の人が多と思われる）での分析も必要である。
→次回示したい。（事務局）
- ・ 回収率は高くないのではないか。

→他の一般的な調査では年齢の上限を設けずに行うことが多く、その場合はもう少し回収率が高いが、今回は16～39歳を対象としており、その年代を対象とすると、回収率が低くなってしまいう傾向がある。

(事務局)

- ・そこに市民の市に対する関心の低さが表れているのではないか。アンケートを送付する際に、例えば「あなたのご意見がこのまちをどんどんいいまちにしますよ」等の文を入れる等、回答する気持ちを湧き立たせるような工夫はあったのか。

→回答を促す工夫をして作成したが、そのような文章は入れていない。(事務局)

- ・子どもがいる人からは約200件しか回答が得られておらず、非常に少ない。

→他の自治体でも同様のアンケートを実施しているが、この年代の回収率としては決して低くはない数字であると思われる。年代を絞らずに実施すると50代以上が半数を占めるというような結果になりがちであるが、今回年代を絞って実施し、データとしては有効なものが得られたと考えている。(事務局)

- ・資料7のp29図表40、41の公園・運動場等には、都立公園も含まれているのか。含まれているのなら、小金井市が独自に利用方法を定めることができる公園は少ないということになる。

→都立公園も含まれている。(事務局)

- ・農地が6.7%ある。活用したい。
- ・自分はサッカーを教えているが、小金井市はグラウンドがない。野球やサッカーをできる場所がない。府中市や小平市は、公園でパス練習ぐらいはできるようにしている。
- ・少年野球も、あちこちに行って練習していると聞いたことがある。
- ・小金井公園に少年サッカーの運動場が1面あるから何とかやっている状態である。日野市や八王子市、稲城市は、人工芝のよいグラウンドがある。そういうところがあると、小中学生が地元に残ってくれるようになるかもしれない。
- ・学芸大のグラウンドは利用できないか。
- ・FC東京との契約があるので、一般の人が使うのは難しいかもしれない。
- ・大学の施設を使わせてもらえないか。長屋的なよい意味でのつきあいをできればと思う。
- ・ナイター設備があるグラウンドがない。
- ・学芸大は、弓道場を国分寺市と共同で建てており、運営でも共同している。
- ・小中学校のグラウンドの利用もいろいろな制約があり、大変と聞いて

- いる。学生や子どもを大切にすまちとして、子どもたちのために、大学のサッカー場を貸してもらおうというようなことができると思う。
- ・学芸大のキャンパスは、一時期入場を制限していたが、現在は全面解放している。話し合い次第ではそのような範囲が広がるのではないか。
 - ・大学も生き残りの戦略として、子どもたちに来てもらって、将来地元の学生が入学してもらえるようにしないといけない。

2 今後の検討の流れについて

○事務局から説明

- ・今回示した人口推計を踏まえ、資料7のp21の第3節の人口の変化が地域の将来に与える影響（白紙であった部分）に、今回いただいたご意見を活用しながら記入したものを示し、分析・考察をしたいと考えている。
- ・そこで出た影響は、今後、避けては通れない課題となる。その課題をメリットと考えるのか、デメリットと考えるかにもよるが、その影響を踏まえて、市の人口に対する方向性を打ち出していく必要がある。それが第3章の第1節（市の将来展望 目指すべき方向性）となる。
- ・あわせて、その方向性に基づいて、総合戦略の中で施策を打ち出していく必要もありまして、そういった総合戦略の枠組みについてもご説明、お示ししたいと考えている。

○主な意見

- ・データの分析については、総合戦略を念頭に置いてする必要がある。

3 その他（意見交換等）

○事務局から説明

- ・次回以降の日程について説明した。
第3回 10月26日（月）午後6時～
第4回 11月26日（木）午後6時～（※後に中止となった）
第5回 12月14日（月）午後6時～
- ・第6回については、第5回の後、市民説明会等の形のを予定しており、その後に最終的にいろんな意見を踏まえた委員会を1月～2月に開催したいと考えている。その日程は後日調整させていただきたい。

～以上で会議終了～